

特別支援学校のセンター的機能における ICF 活用

— 子どもをどのように理解し、どのように支援につなげるか —

齊 藤 博 之

(山形県立上山高等養護学校)

KEY WORDS: 地域支援, ICF (国際生活機能分類), IS09001

1 目的

近年、特別支援教育を推進する体制を整える上で、特別支援学校のセンター的機能の充実がますます求められている¹⁾。法制的にも、平成 18 年に改正された学校教育法の中で、特別支援学校は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の要請に応じて、必要な助言又は援助をする旨が規定されている。センター的機能の一つである地域支援は、幼稚園や小・中学校、高等学校等に在籍する特別な教育的ニーズを必要とする幼児児童生徒に適切な教育が提供されるよう積極的に地域とかがわりを持っていくことがその役割であると考えられる。

本稿では、筆者が校務分掌組織である地域支援室で行った実践を基に、地域支援における ICF 活用の具体的な方法と、相談・支援の仕組みを整えることについて報告する。

2 方法

(1) ICF の活用

小・中学校、高等学校等に在籍する、特別な教育的ニーズのある児童生徒等の状態像や、問題となる事象は多種多様である。そのような児童生徒等に対して、「この子をどのように理解したらよいか」、「何を指導したらよいか」と戸惑う声を聞く。「何かが問題である」と感じてはいるが、その状況が断片的な理解になりがちなために、支援に関して戸惑いを抱えているものと思われる。

そこで、問題状況を整理する際に、ICF の各項目を参考にしながら、構成要素間の相互作用図(枠組み)²⁾を活用した ICF 関連図を作成したところ、児童生徒等を多面的・総合的に把握することができるようになった^{3) 4)}。その流れは以下の通りである。

① 問題状況の表現

電話等で相談を受ける際に、相談の主訴や児童生徒等の生活・学習上の困難さ、年齢や検査等の結果、診断状況などの情報を個別記録シート等で確認する。

② 問題状況の整理

地域支援室のスタッフによる事前カンファレンスを行い、ICF 関連図(「子ども理解シート」)を作成する。ICF の項目を参考にしながら、枠組みを示す図に問題となる状況を貼り付けていく。ICF にはないが、子どもの「つぶやき」(主体・主観)についても把握しておくようにする。

③ 目標の設定と課題解決の方略検討

出来上がった子ども理解シートから ICF 関連図(「目標と支援計画シート」)を作成する。目標の設定にあたっては、「参加」の視点から考えるようにする。

④ 相談・支援の実際

依頼先に出向き、授業参観やケース検討会を行い、対象となる子どもの現状理解と課題・目標の設定、支援内容を確認する。

⑤ 評価・検討

地域支援室のスタッフによる事後カンファレンスを行う。依頼先で何が確認されたかをふりかえることと、相談までのプロセスについて検討する。

(2) 地域支援の仕組みを整える

特別な教育的ニーズのある児童生徒等の理解と支援内容

の設定にあたって ICF の活用は有効であることが認められた。しかし、それは実感レベルでしかない。相談依頼者のニーズにできているか、また、一定水準以上の支援を保っているかどうかを測る方法として、地域支援の仕組みを整え、明確に示す必要があると考える。ここで参考にするのが、品質マネジメントの国際規格である IS09001 である⁵⁾。プロセスを基礎とした品質マネジメント・システムのモデルは、インプットとしての要求事項を決定する上で、顧客が重要な役割を持つことを示している。つまり、地域支援で言えば、依頼者のニーズにできているかどうかは依頼者の満足によって決定されることを示しており、「気になる子ども」の問題と言われる内容が改善されているかどうか重要であることを示す。このことをきちんと証明できるようにすることで、地域支援の評価が可能になるものと考えられる。

3 結果と考察

ICF の活用により、よりの確な子ども理解と、より適切な支援内容の設定ができるようになった。子どもの問題状況を ICF 関連図で表すことで、一つ一つの状況が関連付いていることが理解された。このように、問題状況を関連的に表すことで、ある事象が改善されると、それに関連する事象も改善されるであろうと仮説を立てることができる。つまり、指導の経過に伴って得られる指導上の効果が予測でき、実際の指導にあたって、仮説のような予想通りの成果が得られているかどうかを確かめたり、予想と異なるところを修正したりすることが可能になるものと考えられる。

また、ICF が様々な利用者間の共通言語であるという特徴から、教育だけではなく、多くの職種の関係者と情報を共有しながら支援に取り組むことができるようになった。

「よりよい「参加」の姿」をイメージすることと、否定的な感じから肯定的な感じへ「つぶやき」を転換させることを意識して目標設定することで、より具体的な支援内容を考えることができるようになった。

ほかにも、様々な「問題」を子どもだけに還元するのではなく、環境との相互作用の中で捉えようとする ICF の特徴や、IS09001 における、「是正処置」、「予防処置」の観点も、特別な教育的ニーズのある子どもを支援する際に有効であると考えられる。

参考・引用文献

- 1) 中央教育審議会(2005): 特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申), 文部科学省。
- 2) 障害者福祉研究会編(2002): ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—, 中央法規出版
- 3) 齊藤博之(2005): ICF の地域支援への活用, 『ICF (国際生活機能分類) 活用の試み』(分担執筆), ジアース教育新社
- 4) 齊藤博之(2005): ICF (国際生活機能分類) の地域支援への活用, 日本特殊教育学会第 43 回大会論文集
- 5) ISO/TC176 国内対策委員会監修(2001): 対訳 IS09001 (品質マネジメントの国際規格), 日本規格協会 (Hiroyuki SAITO)